

濁水かわら版

第94号 2020年3月4日
ボケ防止をかねて 中安 宏規

歴史は繰り返えされる

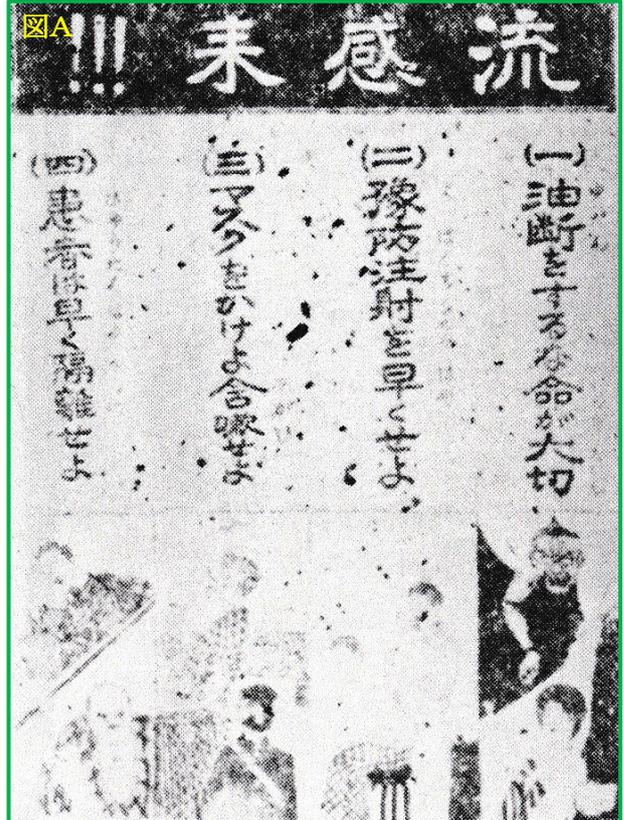
スペイン風邪 から 100 年 動物虐待の逆襲始まる

2月28日の朝刊を見て驚いた。安倍政権が、新型コロナウイルスの流行状況を見、全国の小中高の休校を教育委員会等に要請した。続報で文科相の反対を押し切った「首相の独断」だったという。読みながら1917年に発生した「スペイン風邪」が思い浮かんだ。日本に上陸したのが翌18年。居座り続けてちょうど100年前の1920年春まで続いた。スペイン風邪の感染・死亡の数値はさまざまだが、世界の死亡者数はWHOの約4000万人、日本は内務省統計の約38万人を基に話を進めたい。

① 図Aは、スペイン風邪流行当時のポスターである。

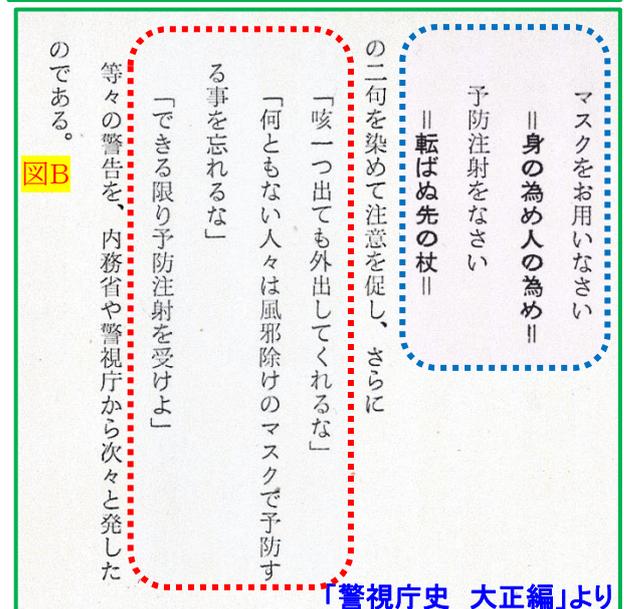
①油断するな…。②予防注射を早く…。③マスクを、嗽を…。④患者を早く隔離せよ。①と③は今回にも通じるが、②は当時、ウイルスの発想はなく、細菌の2次感染を抑える予防注射だったようだ。④の「隔離せよ」は、ハンセン病を隔離した時代の日常語なのだろうか。ポスターは劇場・寄席・活動写真の引幕中央に掲げた。

② 感冒が日本に上陸したのは1918(大正7)年。当時の国内問題は内務省が担当した。警視庁史は概略次のように書いている。内務省を中心に東京府・市と共に警視庁も予防救護に活躍。10月26日、告諭第1号を発した。内容は、春に内地で流行した特殊な感冒は夏に衰えたが、初秋に各地に散發。東京でも同じ状況にあり、各自が次の事に注意し予防に努めてほしい。注意事項は7項目。室内や着衣・寝間着・布団など清潔にし、時々日光にさらす。雑踏になるべく立ち寄り、患者や罹患の怖れのある人に近寄らない。頭痛や熱が出た時はすぐ、医師の診療を受ける。患者はなるべく別室に隔離し、患者の唾液や室内に注意し医師の指示に従う…。また図Bの点線内のようなビラを電車内・湯屋・理髪店・劇場・寄席その他公衆の見易い場所に掲示、警察官が各戸別に配布して注意を与えた。伝染経路を映画にして上映した。さらに8000人の警察官全員にマスクを配布、医務課の係官を増強。新患者収容の仮設臨時収容所を特設するなど、あらゆる方法を尽くし予防に努めた、と記している。今回、中国も仮設病院の建設に追われた。それにも拘わらず犠牲者は増え続け、日本のみでなく世界が悲鳴をあげた。→次頁へ



インフルエンザに対する予防宣伝

「警視庁史 大正編」より



「警視庁史 大正編」より

世界病…死者山をなす

③ 「国民新聞」は1918(大正7)年10月25日、「感冒東西両洋を襲う」の見出しで「遂に世界病—死者山を成す」の書き出しで次のように書いている。「本春来内地に流行せる特殊な感冒は、夏季に至り病勢衰へたりしも近來に至り、復、諸府県に勃発し、或る地方にては、学校の授業も中止する有様となり…」次いで海外の領事館から3件の報告を紹介している。

孟買(インドの現ボンベイ)の惨状。一度終息を告げた熱病が、先月中旬より再発、目下毎日700名以上の死者あり(10月9日発)、南亜連邦。悪性感冒の暴威今や其の極に達し、死亡日に数千を算し、都市を荒廃し漸次地方村落に向い、蔓延しつつありと。1日以降、2週間にしてケープタウン、ヌロニー半島は5千人の死亡者を出し衰退の模様なく、欧人の死亡率も増加しつつあり…死者の多くは肺炎若しくは心臓麻痺を齎れる。桑港(サンフランシスコ)猖獗(暴威)。米国東部地方で過半来猖獗を極めたるスパニッシュ・インフルエンザは1~2週間来桑港方面にも伝播し来り。桑港市に於いて既に、患者数3千の発生を見るに至れり。在留邦人のうちにも死亡者若干名を見るに至れり(太田総領事)

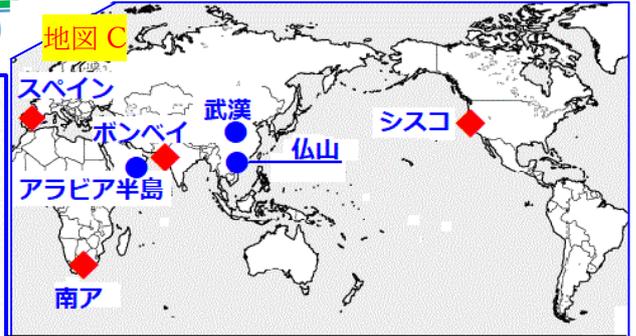
スペイン風邪被害 1920年

図D

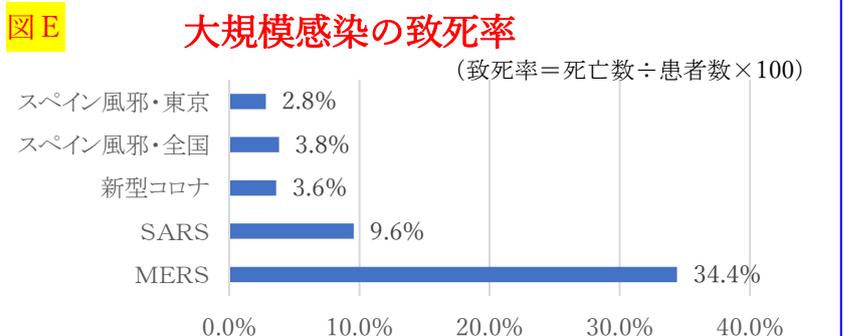
死亡者	罹病者	死亡者	罹病者
九千八百六十六名	三十五万一千四百四十四名	六万五千八百五十二名	百七十二万四千二百六十三名

を数え、このうち東京府は

「警視庁史 大正編」より



地図C: ◆はスペイン風邪の発生・関連地
●は新型コロナウイルス、SARS、MERSの発生地
図D: スペイン風邪の全国・東京の感染者と死亡者数。感染のピークだった1919年11月1日~20年2月12日までの104日間の内務省調査。1日平均全国で633人、東京で95人が死亡したことになる。



図Eは、今回の中国発の新型コロナ肺炎と過去の大規模感染の致死率をグラフにした。①スペイン風邪の東京2.8% 同全国3.8%は、警視庁史の数字(図D)を基に私が計算した。②今回中国で発生した「新型コロナ」は、BBCニュースJAPANが伝えた2月26日現在のWHOの数値。③SARS(重症急性呼吸器症候群)は、国立感染症情報センターHP。2002年11月16日、中国広東省佛山市で発生、2003年7月13日まで29か国に拡散し罹患重く8098人、死亡774人(うち中国349人・香港299人)。全体の致死率は9.6%だった。④MERS(中東呼吸器症候群)は厚労省HPからダウンロード。アラビア半島7か国を中心に2012年9月~2019年11月末までの報告患者数2494人。進行中らしく少なくとも858人の死亡が確認され致死率34.4%。拡散国は中国・韓国などアジアや欧米20か国に及ぶ。③④の日本上陸は確認されていない。

島村抱月氏逝く

以下1918年11月6日 読売新聞より

④ 抱月島村竜太郎氏は去月卅日の晩より感冒気味にて臥床せしが五日、初日の明治座『緑の朝』の為に、押して舞台監督を方めしより、二三日前より発熱甚だしく、主治医本多氏の診察を受け、更に宮本博士の診断をも乞ひしに病勢重く急性肺炎を併発し俄然、心臓麻痺を起こし、五日午前二時「苦しい」と一語を残し牛込横寺町の芸術倶楽部の一室にて逝けり。その死の余りに突然なりし為、臨終の席には

医師看護婦事務員の二三氏ありしのみ。松井須磨子始め、芸術座部員は当時、明治座にて舞台稽古中にて不在なりき。…急報で駆け付けた部員は突然の死に言葉もなく…倶楽部の舞台裏六畳間に横たへられたる遺骸を守りたり…午後一時夫人いち子が令息・令嬢を伴ひきたり。氏は行年四十八歳…
抱月は島根県生まれ。幼少貧しく浜田区裁判所に勤め、判事島村文吾が才能を認め、 →次頁へ

前頁から) 愛娘の婿養子になり島村家を継ぐ。その後、東京専門学校(早稲田大学)を卒業、独英に留学→早大教授→自然主義文学理論の確立に努め恩師坪内逍遙の後を継ぎ後進を指導→女優松井須磨子と恋に陥り、早大・逍遙・家族と訣別。須磨子を中心にした劇団「芸術座」を結成した。

⑤ 松井須磨子は抱月が旅立った2か月後の19年1月5日=月命日の未明、芸術座で縊死した。坪内と劇作家伊原青々園・実兄の3人に遺書を

を残していた。彼女は1886年、長野県松代生まれ。17歳で千葉県木更津の旅館に嫁したが離婚。坪内の文芸協会演劇研究所の1期生で卒業。同協会の帝劇などの公演で抱月と知り合い抱月の芸術座に移る。

彼女は当時の女性と違い自由不羈=束縛されないトップ女優であったと言われる。抱月の写真の両側に自分の髻姿の写真2葉で挟み「抱月の墓に埋葬して欲しい」の遺言は果たされなかった。抱月は私の散歩コースの雑司ヶ谷霊園に眠る。



写真上 毎日新聞社刊「1億人の昭和史①」より。2人の間の人物など加工した。写真下 抱月の墓碑 3/3 日写す)

動物虐待のツケ Zoonosis

⑥ 下のコラムは16年前に書いたものです。探したら出てきました。ご笑読下されば幸いです

客や輸入品と共に入り込んだらしく、ほぼ全米に広がり多

九八年にマレーシアを襲ったニパウイルス感染症の背景は、大規模養豚場がフルーツ

候群は、わずか五年でカナダから南米へ拡大した。原因はエルニーニョによる大雨↓松

生↓人へ感染と見られ、致死率は四〇%に上る。

一九九三年に米国南西部で発生したハンタウイルス肺症候群は、わずか五年でカナダから南米へ拡大した。原因はエルニーニョによる大雨↓松

昨

冬流行した新型肺炎(SARS)に次いで、今アジアを襲っている鳥インフルエンザは、動物がもたらす病気の

濁水清淵 | 動物たちの逆襲

の死者を出している。ウイルスは宿主を離れて生存出来ないため、主人には悪さをしない。だが一度、他の生物に移ると、遺伝子が変わり、たちまち動物や人を攻撃する恐れがある。

動物由来の病気をズーノシス(Zoonosis)と呼ぶ。ギリシャ語の動物と病気の合成語だが、地球温暖化による異常気象や大規模開発など、多くは人間の動物世界への侵犯が原因となっている。

第一次世界大戦末期に四千万人の死者を出したと伝わるスペイン風邪は、鳥インフルエンザであったと、米国の研究者が二月に発表した。

第二次世界大戦では、爆薬の原料のニトログリセリン製造に動物油脂が使われた。戦後、油脂の利用法の技術革新が起こり、産物の肉骨粉を飼料に使い、BSEをもたらしたと考えられている。

不遜な人間に動物の逆襲が始まったのだ。(宏)

25 年金時代 2004.3

読み返して見ると、スペイン風邪は2004年2月、米国の研究所が84年の空白をへて「鳥インフルエンザ」であったと発表したと書いています。さらにコラムには6件の動物の逆襲が載っています。こうした動物の逆襲を【Zoonosis】という、手持ちの辞書にないギリシャ語を交えた新語は取材過程で聞いた言葉です。スペイン風邪は、第1次大戦末期に暴発。牛肉を巡るBSE騒動も、第2次大戦の爆薬に使われた油脂の残りを牛の餌に利用したのが原因と記憶しています。中国発の眼に見えぬウイルス騒動は、温暖化を含めた不安定な地球社会への警告のように思います。つづく